

# 衛研ニュース

第8号

川崎市衛生研究所

平成 22 年 1 1 月発行

## 業務紹介

### 【ウイルス検査室】

#### 蚊が媒介する感染症



海外旅行者が渡航先で蚊に刺され、「デング熱」\*<sup>1</sup>や「チクングニヤ熱」\*<sup>2</sup>に感染する例が増えています。これらの感染症は蚊が吸血する際に、蚊の唾液からウイルスが入り込むことで起こります。さらに感染者から健康者へと蚊がウイルスを運ぶことで感染症が広がっていきます。

#### 感染症の予防方法

現在、日本では「デング熱」、「チクングニヤ熱」ウイルスは国内定着をしていません。しかし、亜熱帯～温帯にある日本では蚊の生息密度が十分に高く、ウイルスが侵入した場合にまん延しやすい環境です。そのため、次のような注意が必要です。



- 海外旅行の際は渡航先の感染症流行状況を確認する。  
⇒ 外務省海外安全ホームページ [http://www.anzen.mofa.go.jp/kaian\\_search/sars.asp](http://www.anzen.mofa.go.jp/kaian_search/sars.asp)  
⇒ FORTH 厚生労働省 検疫所 ホームページ <http://www.forth.go.jp/>
- 屋外では長袖の服を着用したり、虫よけ剤を利用して蚊に刺されないようにする。
- 蚊の幼虫が生息できるような、水が溜まった場所をなるべく減らす。

#### 衛生研究所における取組み

ウイルスの侵入をより早く感知するため、また蚊の発生状況を知るために、市内 12 か所で捕集した蚊を分類し、ウイルスの保有状況を調査しています。



ヒトスジシマカ(雌)



\*1 「デング熱」とは  
主に東南アジア地域で流行し、国内輸入症例は年間 100 件を超えています。  
「デング出血熱」という重症例も報告されています。

\*2 「チクングニヤ熱」とは  
アフリカからインド洋を経てアジアに流行地域を急速に拡大しています。  
発熱、発疹や激しい関節痛などが現れます。  
国立感染症研究所によれば、地球温暖化に伴い、ウイルス媒介蚊の生息  
分布域拡大の可能性が予測されています。

日本の都市部で「アカ  
イエカ」とともに最も一  
般的な蚊です。熱  
帯地域に常在する  
「ネタイシマカ」と同様に  
ウイルスを媒介します。

## 衛生研究所の研修・指導活動

当所では、地域及び広域における健康危機管理の科学的・技術的中核機関としての専門性を活かし、講師の派遣をはじめ、様々な研修・指導活動を実施し、公衆衛生知識の普及啓発に努めています。また、所内においても、定期的に職員研修会を実施する等、職員の育成と資質の向上に努めています。



### 講師派遣と研修指導

衛生研究所職員は、各専門分野の講師として、活動しています。

平成22年の職員講師派遣・研修指導状況（一部を紹介します）

テーマ又は内容	対象
「公衆衛生に係る日常業務の実際とその意義について」	大学薬学部3年生(右下写真参照)
「川崎市衛生研究所の業務」	看護専門学校生(左下写真参照)
大学生実務教育（インターンシップ）	大学獣医学部5年生
「新型インフルエンザについて」	川崎港保健衛生協議会会員
「レジオネラ属菌とその検査法について」	環境衛生監視員

看護専門学校生を対象に、衛生研究所で微生物分野の講義及び実習、理化学検査分野の説明を行いました。将来、看護の実務に役立つことを期待しています。



大学にて、衛生研究所の業務を中心に講義を行いました。授業科目と社会との結びつきをはじめ、公衆衛生行政全般についてより理解が深まったことと思います。



### 職員研修会の開催

10月15日に、東京都健康安全研究センター食品化学部研究員を講師としてお招きし、「食品を汚染するカビ毒について」と題して、最新のカビ毒に関する研究成果を聴講しました。衛生研究所では、毎年、テーマを替えてこのような研修会を行い、試験研究の糧としています。



★ 4月から10月までの『衛研ニュース』を下記HPアドレスからご覧いただけます。

発行元 川崎市衛生研究所

〒210-0834 川崎市川崎区大島5-13-10

電話 044-244-4985 FAX 044-246-2606

メールアドレス 35eiken@city.kawasaki.jp

HPアドレス <http://www.city.kawasaki.jp/35/35eiken/main.html>



KAWASAKI CITY  
川崎市